

### 330) 目覚まし時計

我輩はサラリーマンになってからと言うもの、朝は7時に起きる習慣になっており、これは休日であろう行と平日であろうと、ここ20年ずっと同じ生活を続けています。最近では目覚ましがあろうとなかろうと決まって朝7時には目が覚めてしまうのですが、まだ古典的な目覚ましで起きていた頃の出来事です。その日も目覚ましは鳴っておりまして、夢うつつの中で、アッ、目覚ましは鳴っている。もう起きる時間だ。起きなきゃ。起きなきゃと思いつつ、目覚ましを止めるべく、枕元に手を伸ばして目覚ましを掴んだのですが、どうもいつもの時計とは形が違うのであります。うっすらと目を開けてみると、真桑瓜のような形をしているではありませんか。おかしいなと思って近くに引き寄せると、今度は何と「モシモシ、モシモシ！」と言うてるのであります。それで不思議に思ってもう少し良く見ると、ちよいと向こうには鼻眼鏡の部長殿の顔が見えるではないですか。我輩はいつの間にかデスクで居眠りをしていたのでありまして、目覚ましと思ったのは、やっぱり電話のベルの音だったのであります。